

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 2 区分
 【発行日】平成 19 年 5 月 17 日 (2007.5.17)

【公開番号】特開 2005-292570 (P2005-292570A)
 【公開日】平成 17 年 10 月 20 日 (2005.10.20)
 【年通号数】公開・登録公報 2005-041
 【出願番号】特願 2004-109091 (P2004-109091)
 【国際特許分類】

G 0 2 B 5/18 (2006.01)

【F I】

G 0 2 B 5/18

【手続補正書】

【提出日】平成 19 年 3 月 27 日 (2007.3.27)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 3】

図中、回折格子 6 , 7 は同心円状の格子形状からなり、レンズ作用を有している。また第 1 の回折格子 6、第 2 の回折格子 7 は曲面 (格子形成面) 4 a , 5 a 上に形成されている。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 6】

そして全層を通して 1 つの回折光学素子として作用している。第 1 の回折格子 6 の格子部 6 a (1 つの格子) の先端 6 b を連ねた包絡面 9 は、曲面からなり、基板 4 の格子形成側の 4 a の曲率半径とほぼ等しい曲率半径の曲面である。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 8 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 8 8】

一例として、第 1 の回折格子 6 を型から離型する状態を図 8 に示す。格子側面 1 3 の形状として、例えば、図 4 のように包絡面 1 1 の垂線に平行な面で形成されている場合を考える。金型 (成形用型) 1 5 から離型するのに図中光軸 O の方向に剥がしていくわけであるが、格子側面 1 3 が包絡面に垂直に形成されているため型 1 5 に引っ掛かることがわかる。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 0 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 1 0 1】

